

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2017. 8.18(fri)・19(sat)

全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM
2017



Q. 「E.FORUM」とは？

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。



研究科長よりご挨拶

今年も恒例の夏の E.FORUM を行います。教育学研究、教育実践の進展にとって、領域を超えた対話や理論と実践が往還する場は両者をつなぐ核として重要な位置をもっています。E.FORUM は、2006 年の創設以来、本研究科のこうした理念の実現を担う場(しくみ)として大きな役割を果たして参りました。本年度も、ご参加頂きました皆様方が多くの学びを得られることを切に願っております。

稲垣 恭子(京都大学大学院教育学研究科長)

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では 2006 年度に E.FORUM を設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。2012 年度からは、教師をめざす学生たちにも積極的な参加を呼び掛け、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の日程で研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

全国スクールリーダー育成研修

日程： 2017年8月18日(金)・19日(土)

対象： 全国からの希望者 100 名程度 (先着順)

会場： 京都大学吉田キャンパス 国際高等教育院棟講義室 31 ほか

(詳細は裏面の地図をご覧ください)

※1 日目または 2 日目のみの参加も受け付けています。

お申込み方法：

申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、7 月 20 日(木)までに、メールまたは FAX で事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

※ 本年度より参加費は銀行振込でのお支払いとなりました。現金でのお支払いは受け付けておりませんので、ご注意ください(懇親会費・お弁当代を除く)。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000 円)が必要です。また、お弁当(1 個 1,000 円)をご用意できます。なお、懇親会費とお弁当代は、当日受付にてお支払いください。

参加費

2日間：9,720円(税込)

1日のみ：7,560円(税込)

お支払い方法

銀行振込にて 7 月 31 日(月)までにお支払いください。振込先等の詳細については、お申込み受付けの際に事務局からお送りするメールにてお知らせいたします。

尚、ご入金後の返金はできません。何卒ご了承くださいませ。



E.FORUM

検索

お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033

E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(申込用紙はホームページからもダウンロード出来ます。)

URL: <http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>

運営担当：黒田真由美(教育実践コラボレーション・センター研究員)・田坂鞠子(京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局)

プログラム

2017年8月18日(金)

会場：国際高等教育院棟 講義室 31 ほか

9:00 - 9:30	受付		(司会)
9:30 - 9:45	オープニング		西岡 加名恵
10:00-12:00	分科会 A or B	分科会 A 「カリキュラム設計入門 ——パフォーマンス課題づくり」 講師：西岡 加名恵	分科会 B1 「若い教師に伝えたい 授業づくりの発想」 講師：石井 英真
12:00-13:30	昼休み(お弁当※1,000円)		
13:30-15:00	分科会 A or B	分科会 A (午前の続き) 「カリキュラム設計入門 ——パフォーマンス課題づくり」 講師：西岡 加名恵	分科会 B2 「カリキュラム・マネジメントとの 向き合い方」 講師：服部 憲児
15:15-15:25	研究科長挨拶		
15:25-17:40	シンポジウム 「グローバル化時代の市民形成」	<シンポジスト> 山ノ内 裕子 (関西大学文学部・教授) 矢野 智司 (京都大学大学院教育学研究科・教授) 南部 広孝 (京都大学大学院教育学研究科・教授)	山名 淳
18:00-20:00	懇親会※ (会場：京大時計台前カフェレストラン「カンフォーラ」 参加費 3,000円)		

2017年8月19日(土)

会場：国際高等教育院棟 講義室 31 ほか

9:30-10:00	受付		(講師)	(司会)
10:00-10:15	オリエンテーション			
10:15-11:45	講演 「データから読むゼロ年代——縮小する日本らしさ」		岩井 八郎	
11:45-13:15	昼休み(お弁当※1,000円)			
13:15-16:45	シンポジウム&教科等別分科会 「E.FORUM スタンドの再検討に向けて」		西岡 加名恵 ほか	
16:45-17:00	クロージング			

※お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日、受付にて代金をお支払い下さい。
キャンセルされる場合は7月31日(月)までにご連絡をお願い致します。



講義の内容も現在の教育動向にとっても合っていたし、知りたいと思うことに応えてもらうような内容であった。ゆったりと考えることができた。聞いて学ぶ時間と自分で考える時間のバランスがとても良かった。
(小学校教諭)

講演する側の熱意と聞く側の熱意がこれほどまで強い研修に参加したことがありません。同じ悩みを多くの席の先生方とすぐに共有できる雰囲気も素晴らしいです。
(高等学校教諭)

悩みながら、試行錯誤しながらの現場での実践に対して、ヒントをいただいたり、振り返る機会を持つことが有意義です。今、教育をめぐる状況をわかりやすく説明していただける学びの場となっています。
(高等学校教諭)

昨年度の受講者の声
(写真は昨年度の研修の様子です)



10:00-12:00/13:30-15:00

国際高等教育院棟
講義室 31

分科会 A 「カリキュラム設計入門
——パフォーマンス課題づくり」

学習指導要領の 2017 年改訂に向けた議論においては、「資質・能力のパランスのとれた学習評価」を行っていくために、パフォーマンス評価を取り入れることが推奨されました。本セッションでは、典型的なパフォーマンス評価の方法であるパフォーマンス課題の作り方を体験的に学んでいただきます。また、ルーブリック(評価指標)の作成方法やポートフォリオの活用方法についてもご説明します。

※ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立つような資料をご持参ください(教員研修の計画づくりをしていただくことも可能です)。

【講師の主な著書】『教科と総合学習のカリキュラム設計』(単著、図書文化、2016 年)、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』(編著、明治図書、2016 年)。翻訳『理解をもたらすカリキュラム設計』(日本標準、2012 年)も刊行。



にしおか かなえ

西岡 加名恵 教授

専門は教育方法学(カリキュラム論・教育評価論)です。パフォーマンス評価の研究開発、学校におけるカリキュラム改善の進め方などに関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。

10:00-12:00

国際高等教育院棟 講義室 32

分科会 B1 「若い教師に伝えたい授業づくりの発想」

都市部を中心に教師の世代交代が急速に進行しています。その中で、若手教師に授業づくりの基本的な技や考え方をどう傳承するかが課題となっています。本セッションでは、授業づくりの骨格となる思考のフレームを紹介するとともに、教材研究をどう進めるか、学習者のつまずきをどう読み解くかといった、授業づくりにおける基本的な考え方について、ワークショップ的な演習を通して学びます。また、「教科する(do a subject)」授業をキーワードに、授業づくりの今後の方向性についても説明します。

【講師の主な著書】『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』(単著、日本標準、2015 年)、『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』(単著、東信堂、2015 年)、『中教審「答申」を読み解く』(単著、日本標準、2017 年)、『教師の資質・能力を高める! アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ』(編著、日本標準、2017 年)など。



いしい てるまさ

石井 英真 准教授

学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。

13:30-15:00

国際高等教育院棟 講義室 32

分科会 B2
「カリキュラム・マネジメントとの向き合い方」

「カリキュラム・マネジメント」なるものが教育界を賑わせています。学習指導要領の理念を実現するためにこれが不可欠だとされています。教育課程を中核とする学校改善という発想は今に始まったことではありません。ただ、今時とりわけ求められているのは、社会に開かれた教育課程、教科横断的な視点、様々な教育資源の効果的な活用などです。つまり、より広い視野が教員に求められています。このような状況にどう対処すれば良いのか。これを質の高い学びにどう結びつけるか。そこにはどのような課題があるのか。本セッションでは、政策動向や関連事項について確認した上で、カリキュラム・マネジメントとどう向き合うかを、一緒に考えていきたいと思います。

【講師の主な著書】『フランスCNEIによる大学評価の研究』(単著、大阪大学出版会、2012 年)、『学生と楽しむ大学教育』(共著、ナカニシヤ出版、2013 年)、『教育行政提要(平成版)』(共編著、協同出版、2016 年)など。



はっとり けんじ

服部 憲児 准教授

教育制度・教育政策の研究をしています。今日、教育を取り巻く環境にはたいへん厳しいものがあります。その現実を直視しつつも、元気が出るような制度や政策を作っていく手がかりを模索しています。

シンポジウム

「グローバル化時代の市民形成」

科学技術の高度化や情報化などを背景として、現代社会はますます多様な境界を超えて繋がり合うことを人びとに求めているように感じられます。同時に、そのような「グローバル化社会」においては、さまざまな価値観が互いにぶつかり合うような新たな衝突の危険性が高まりつつあるようにもみえます。

本シンポジウムでは、統合と分断が複雑に入り組む現代に求められる「市民」像およびその育成の可能性について、3名の報告者がそれぞれの専門分野の立場から多角的に論じます。報告をもとにしつつ、そのような社会上の変化と密接にかかわりあう学校教育の未来について参加者の皆様と一緒に考えます。

【報告】

- 「グローバル化と多文化共生」

関西大学文学部

山ノ内裕子 教授

- 「世界市民・地球市民・宇宙市民」

京都大学大学院教育学研究科

矢野 智司 教授

- 「国際交流・留学と市民育成」

京都大学大学院教育学研究科

南部 広孝 教授

【司会・コーディネーター】 京都大学大学院教育学研究科 山名 淳 准教授



京都大学 OCW サイトのご紹介



高等学校における探究学習のあり方などについての動画を、下記でご覧いただけます。

- (1) 2014 年度 E.FORUM 教育研究セミナーⅡ
「高大におけるカリキュラム改革を考える
——探究力育成の視点から」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/91>

- (2) 2014 年度 E.FORUM 教師力アップ研修
「探究力をどう育成するか」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/92>

- (3) 2015 年度 E.FORUM 教育研究セミナー
「高等学校における探究の評価」

→ <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/113>

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です)



受講者同士のつながりを大切にしようとする進め方が良いと思います。同じような問題意識、興味を持った先生方と話し合ったり、情報交換を行っていく上で、これからの課題が見えてきたように感じます。
(大学院生)

手作り感があり、とても温かい雰囲気の中で普段ではなかなか聞けない高度な学びの場を提供していただけることが本研修の魅力だと思います。全国各地からのさまざまな立場の方と交流が持てるという点もありがたいです。
(中学校教諭)

パフォーマンス課題の設定について学びたいと思いましたが、それと同じくらい評価が大切であるということが改めて理解することができました。生徒や先生方の変化を実感できたのが一番の成果です。
(特別支援学校教諭)



アクティブラーニングなど次期学習指導要領に向けての研究サイトの最新の知見や批判的な見地などを教えていただき、客観的に掴むことができました。
(大学教員)

10:15-11:45

国際高等教育院棟 講義室 31

講演「データから読むゼロ年代——縮小する日本らしさ」

いわゆる「ゼロ年代」(2000年代)は、戦後日本社会の安定を支えてきた要因に綻びが目立ち、未来への不安が高まった時期でした。学力の低下や少年犯罪の凶悪化など教育問題がメディアをにぎわし、教育改革が繰り返し提唱されてきました。非正規雇用の拡大によって、若者層の職業的キャリアが不安定化しました。所得が向上せず、安定した正規雇用層とそれ以外の格差が拡大しました。出生率は先進諸国の中でも最低水準を推移していました。少子高齢化の急速な進行とともに、世代間の相互扶助関係も変化を余儀なくされてきました。講演では、これまで実施してきたライフコースの社会学研究の成果を紹介しながら、ゼロ年代を読み直し、日本社会の行方を考えたいと思います。

【講師の主な著書】

ライフコース研究の概要については、「視点 ライフコースの100年・ライフコース研究の30年」社会学研究会『ソシオロジ』(第60巻1号、2015年、109-111頁)。その他、『教育の社会学』(共著、放送大学教育振興会、2015年)、『現代教育社会学』(共編著、有斐閣、2010年)、『多文化世界—違いを学び未来への道を探る【原著第3版】』(共訳著、有斐閣、2014年)。



いわい はちろう
岩井 八郎 教授

1955年生。大阪大学人間科学部卒。1996年より京都大学教育学部。専門は、教育社会学、家族社会学、社会調査法。全国調査データを用いた福祉レジームとライフコースの変化に関する比較研究を行っている。



E.FORUM Online (EFO) のご紹介

E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「E.FORUM Online (EFO)」を開発しています。EFO に蓄積された各種のデータ(単元指導計画、パフォーマンス課題やルーブリックなど)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。また、寄せられたご質問に対し、講師が回答するサービスも行っています。

「全国スクールリーダー育成研修」を受講された方は、EFO が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。



E.FORUM のホームページ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



掲示板での交流



発言例:
「unit67 に、今、授業でやっている課題について書き込みました。アドバイス・コメント等お願いします。」

ユニット名	ファイル名	単位	学年	担当者	キーワード
02008					
02009					
02010					
02011					
02012					
02013					
02014					
02015					
02016					
02017					
02018					
02019					
02020					
02021					
02022					
02023					
02024					
02025					
02026					
02027					
02028					
02029					
02030					
02031					
02032					
02033					
02034					
02035					
02036					
02037					
02038					
02039					
02040					
02041					
02042					
02043					
02044					
02045					
02046					
02047					
02048					
02049					
02050					
02051					
02052					
02053					
02054					
02055					
02056					
02057					
02058					
02059					
02060					
02061					
02062					
02063					
02064					
02065					
02066					
02067					
02068					
02069					
02070					
02071					
02072					
02073					
02074					
02075					
02076					
02077					
02078					
02079					
02080					
02081					
02082					
02083					
02084					
02085					
02086					
02087					
02088					
02089					
02090					
02091					
02092					
02093					
02094					
02095					
02096					
02097					
02098					
02099					
02100					

「閲覧」をクリックすると、そのユニットのページが開きます。

単元指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

13:15-16:45

シンポジウム&教科等別分科会

「E.FORUM スタンドールの再検討に向けて」

E.FORUM では、参加者の皆さんが開発されたパフォーマンス課題の事例を集約し、広く実践の改善に役立てていただくため、2014年までに「E.FORUM スタンドール(第1次案)」をまとめました。「スタンダード」とは、社会的に共通理解された目標・評価基準です。「E.FORUM スタンドール(第1次案)」では、各教科における重点目標とは何かを探り、包括的な「本質的な問い」・「永続的理解」を提案するとともに、パフォーマンス課題を例示しています。

「資質・能力」の育成やアクティブ・ラーニングが重視される昨今、パフォーマンス課題にはますます注目が集まっています。このシンポジウム&教科等別分科会では、「E.FORUM スタンドール」をさらに改善していくための検討を行います。

※「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題といった用語について基礎から学びたい方には、8月18日(金)の分科会Aにご参加いただくか、または下記OCWを予め視聴されることをお勧めします。

シンポジウム(13:15-14:00)

西岡加名恵(京都大学大学院教育学研究科・教授)ほか

教科等別分科会(14:00-16:45)

【国語】

八田幸恵
大阪教育大学・
准教授

【社会】

鋒山泰弘
追手門学院大学・教授
次橋秀樹
京都大学大学院
教育学研究科・院生

【算数・数学】

石井英真
京都大学大学院
教育学研究科・准教授

【理科】

大貫守
京都大学大学院
教育学研究科・院生、
日本学術振興会特別研究員

【生活・図工】

中西修一朗
京都大学大学院
教育学研究科・院生、
日本学術振興会特別研究員

【音楽・美術】

小山英恵
鳴門教育大学・准教授

【保健体育】

徳島祐彌
京都大学大学院
教育学研究科・院生、
日本学術振興会特別研究員

【技術・家庭】 【教員研修】ほか

北原琢也
京都大学大学院
教育学研究科・特任教授

【英語】

赤沢真世
大阪成蹊大学・准教授
福嶋祐貴
京都大学大学院教育学研究科・院生、
日本学術振興会特別研究員

京都大学 OCW サイトのご紹介



パフォーマンス評価について説明している授業の動画と関連資料を、次のウェブページでご覧いただけます。

- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 I」(2014年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>
- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 II」(2013年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

「E.FORUM スタンドール第1次案」のご紹介



E.FORUM ウェブサイトの「研究成果のご紹介」→「E.FORUM スタンドール」から各教科の第1次案が閲覧・ダウンロードいただけます。

→ <http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/>

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
 - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・みづ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配してくださいようお願いいたします。